

NEWS RELEASE

平成 20 年 4 月 24 日

電通、第 1 回「子育てに関する調査 2008」を発表

株式会社 電通では、「将来の日本を担う子どもたちが、のびのびと大きく育つ環境づくりに寄与したい」という考えに基づき社内横断プロジェクトとして電通 “ジセダイ育成委員会” を立ち上げその第一弾の活動として、2008 年 3 月末に「第 1 回 子育てに関する調査 2008」を実施しました。

団塊ジュニア層を中心とする 30 代が子育て層に入り、父親の意識や行動が変わってきていること、祖父母との家事・育児を通じたつながりが生まれてきていることなどに着目し、現 30 代を中心とした子育て層の価値観やライフスタイルを明らかにしました。

調査結果からは、「30 代父親の「パパカ」（ぢから）が 40 代よりも高く、妻からも一定の評価を受けていること」、「祖父母に頼ることも厭わない巻き込み型子育てが主流になっていること」など、現代の父親・母親の子育て最新事情が浮き彫りになりました。そして、このような子育て環境の変化に伴って、子育てを支援する新たな商品やサービスの開発、さらには新市場創造の兆しや胎動が感じられました。

【調査結果のポイント】**I. 「パパカ」自己採点 58 点。妻が採点する「パパカ」64 点。**

年代	夫の自己採点	妻による夫の「パパカ」評価
全体(平均)	57.8 点	63.9 点
30代前半	57.9 点	66.2 点
30代後半	60.3 点	63.9 点
40代前半	54.7 点	61.1 点

*「パパカ」…今回の調査では、「父親として子育てに前向きに取り組み、自分で対処していこうとする能力や意気込み」と定義。

II 夫は「家事の 16%、育児の 21%」を分担していると認識。

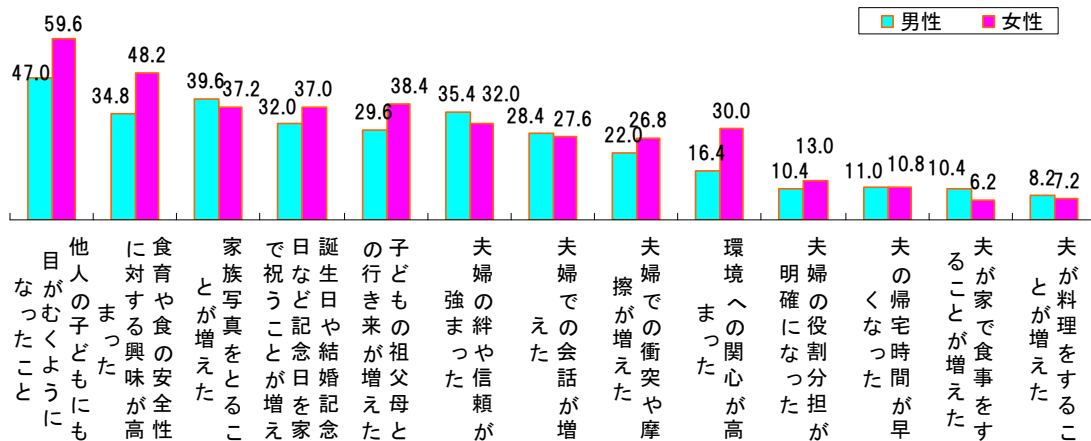
- ・ 夫は、家事の 16%、育児の 21%を担っていると認識。妻も同様に、夫が担っているのは家事の 11%、育児の 17%と認識。夫婦ともに家事・育児の大部分は妻が担っていると認識。夫婦の認識に大きなズレのない二人三脚夫婦。なお、夫婦以外が担っている家事・育児の割合はそれぞれ 3~4%程度。
- ・ 夫が担っている家事・育児…「ごみだし」55.4%、「風呂掃除」41.3%、「休日の子どもの食事の世話」35.2%、「休日の子どもの風呂入れ」67.6%、「子どもの病気のときの世話」28.3%、「子どもほめる」65.0%、「子どもをしかる」(63.2%)、「子どもを散歩に連れて行く」55.9%など。
- ・ 家事・育児ともに、夫婦以外の親などに担っている割合は 3~4%程度。

III 夫の出産立会い率 49.8%。夫の育児休暇取得効果は「妻のストレス軽減」を期待。

- ・ 夫の出産への立会い率 49.8%。30 代前半 58.5%、30 代後半 48.4%、40 代前半 44.6%。
- ・ 「親になることの実感」は、夫は「子供が生まれたとき」41.6%。妻は「妊娠期間中」58.0%。夫婦でズレが。
- ・ 子どもの誕生前の「親学」学習経験者は、妻 98%、夫 83%。
- ・ 親学の三大情報源は「育児雑誌」「母親・父親学級」「育児書」だが、夫は「妻の仕入れた情報」が最多(49%)。
- ・ 男性の育児休暇取得効果は、夫は「妻のストレスが軽減されること」(68.2%)を期待し、妻は「自分のストレス軽減」(59.2%)や「手助け」を期待(60.2%)。さらに、妻は「自分とは違う子育てができること」(33.4%)にも期待。

IV.子どもの誕生は自分の家族が増える喜びや楽しみだけでなく、祖父母とのつながりを強め、食の安全や環境など社会への興味関心を拡大。

親になって変わったこと



V 子どもの成長とともに、子育ては「肉体労働」から「頭脳労働」へ。お金をかける分野も食から、レジャー、おけいごと、塾へ

- ・「子育ては肉体労働に近い」50.4%。「肉体労働・頭脳労働半々くらい」41.1%、「頭脳労働に近い」5.9%。ただし、子どもの年齢が 4 才以上になると「肉体労働に近い」は半数以下になり、「肉体労働・頭脳労働半々」あるいは「頭脳労働に近い」が増加傾向に。
- ・「子育てを楽しんでいることが多い」と感じる父親は 52.4%、母親は 49.0%、「3 人以上いる」親では 59%。有職主婦(53.5%)、専業主婦(49.8%)
- ・子育ての二大不安は「子どもが知らない間に危険にまきこまれること」(63.6%)と「子ども同士のいじめ」(63%)。なお、女兒をもつ親は、この二大不安に加え、「学校の行き帰りの安全」(60.2%)も大きな不安。
- ・子どもの年齢によって、お金をかける分野は変化。0 歳では、「子どもの食や食の安全」(49.2%)、1~3才では「子どもとのレジャー」(36.2%)が増え、4~6才では、「おけいごと」(43.0%)に、さらに 7 才以上では塾(35.7%)にお金をかける人の割合が増える。

VI 女性 6 割は「家族や子どもを大切にしている男はカッコいい」。

- ・「家族や子どもを大切にしている男はカッコいい」と考える妻 63%、夫 40.8%。
- ・「子育て中でもおしゃれに気を配っていたい」妻 34.8%。「子どもと出かけるときもできるだけカッコよく見たい」妻 23.6%。(20 代後半女性 47.9%、30 代前半女性 25.3%、30 代後半女性 21.9%、40 代前半女性 13.4%)。
- ・子育てをブログなどで発信している母親 16.8%。(20 代後半 22.9%、30 代前半 21.0%)。
- ・「自分の父親より夫のほうが子育てに積極的だ」と評価する妻 43.6%。(夫 29.2%)

VII わが子になってほしいのは「カッコいい」「家庭的」より、「気が利く」「おもしろい」子

- ・わが子になってほしいのは「やさしい」(80.8%)、「素直な」(63.3%)、「元気な」(58.4%)、「健康的な」(57.8%)子。
- ・「カッコいい」(14.6%)「家庭的」(18.5%)より、「気が利く」(46.8%)、「おもしろい」(26.9%)子。

VIII.子育ては「夫婦中心だが夫婦で解決できなければ親に頼るのも仕方がない」が主流(50.1%)だが、祖父母の力を借りるのも厭わない、巻き込み型が広がっていく兆し。祖父母には人的サポートを期待し、団塊ネオグランパ・ネオグランマの出現の予感。

- ・「子育てはできるだけ夫婦中心でしていくが、解決できなければ親(祖父母)に頼るのも仕方がない」50.9%、「どんなことでも親(祖父母)に頼らず子育てしていきたい」15.6%、「自分の子ども子育てに親(祖父母)が参加するのは歓迎」14.4%、「親(祖父母も楽しんでいるので子育てに親(祖父母)が参加するのも親孝行のうちだ」15.3%。
- ・祖父に求めること「昔ながらの遊びの指南役」(31.5%)、「ゲームなど子どもの遊び相手」(20.4%)など子どもの遊び相手。祖母へは、「子どもの相談相手・駆け込み寺」(38%)、「子育ての相談相手」(32.7%)など、相談相手。祖父母に日常の子育ての人的サポートを求める人も。

■第1回「子育てに関する調査2008」

- ◇調査地域：1都3県（東京・千葉・埼玉・神奈川）
- ◇調査対象：第1子が0～12才の子どもをもつ25～44才の男女（妊娠中を含む）
- ◇調査対象者数：1000名
- ◇調査方法：インターネット調査
- ◇調査期間：2008年3月29、30日
- ◇調査実施機関：株式会社電通リサーチ

回答者のプロフィール

- ・1000名：25～29才66人(男性18人、女性48人)、
30～34才265人(男性103人、女性162人)
35～39才380人(男性202人、女性178人)
40～44才289人(男性177人、女性112人)
- ・子どもの数(1人48.6%、2人43.6%、3人6.8%、4人以上1.0%) 平均:1.6人
理想の子ども人数 平均:2.2人
- ・第1子の年齢分布:妊娠中2.4%、0才5.9%、1～3才26.0%、4～6才23.7%、7～12才42.0%
- ・妻職業あり34.3%(会社員・公務員・会社役員14.2%、パート・アルバイト18.0%)、妻職業なし65.7%
- ・平均世帯年収:300万円未満3.1%、300～500万円未満21.4%、500～800万円未満42.1%、
800～1000万円未満17.2% 1000～1500万円未満8.6%

電通 “ジセダイ育成委員会”

次の世代を育てることは、にっぽんの未来を育てることだ

これからの日本の親に向けて、子育てのしやすい安心な環境をつくり、その子どもたちが元気力・創造力を身につけ、21世紀さらには22世紀にタフで夢のある社会をつくってもらおうべく、関連する多くの官公庁・企業・団体・メディアの方々とともに活動していきたいと考えています。マーケティング、プロモーション、クリエイティブ、メディア、エンターテインメントなどによる社内横断プロジェクトですが、メンバーは、子育て中の父親や母親、祖父、子ども関連のビジネス経験者が中心となっているのが、特徴です。

お問い合わせ先：
株式会社 電通 プロジェクト・プロデュース局
ソーシャルビジネスプロジェクト室
平井、花島、荒木
(TEL : 03-6216-8058 FAX : 03-6217-5550)